

分布上顕著な新津の植物（9）

石沢 進

1. 新津丘陵における新潟県絶滅危惧種の分布

新津丘陵における新潟県絶滅危惧種の分布を経年ごとに監視し、あらたに追加した種を記録している。本年はその9年目にあたり、現状を以下に表示する。

絶滅危惧I類(EN)	01	02	03	04	05	06	07	08	09
マルバノサワトウガラシ 環境庁:EN							○		
オミナエシ									
キキョウ 環境庁:VU									
イトトリゲモ 環境庁:EN							○	○	
トケンラン 環境庁:EN									◎
クマガイソウ 環境庁:VU									
絶滅危惧II類(VU)									
タチシノブ						○	○	○	
イノモトソウ					○	○	○	○	○
タニイヌワラビ					○	○	○	○	○
ハシゴシダ						○	○	○	○
ヒメカナワラビ						○	○	○	○
サネカズラ			○			○	○	○	○
ハンゲショウ			◎	◎	○	○	○	○	○
ヒゴスミレ									
ヒカゲスミレ									○
カラタチバナ		○		○		○	○	○	
ハイハマボッサ 環境庁:VU	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヤナギスブタ 環境庁:VU									
ヤマトミクリ 環境庁:VU	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エビネ 環境庁:VU						○	○	○	○
キンラン 環境庁:VU				○			○		
ホクリクムヨウラン	○	○			○	○	○	○	○
ヒトツボクロ	○	○			○	○	○	○	
準絶滅危惧 (NT)									
ウラジロ	○			◎			○	○	○
ミズワラビ			○	○		◎		○	
オオバノハチジョウシダ	○		○	○	○	○	○	○	○
ツルデンダ	○		○	○	○	○	○	○	○
コシノカンアオイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
サワギク								○	○
オモト						○	○	○	
ヤガミスゲ			○	○	○	○	○		
地域個体群 (LP)									
コバノヒノキンダ					○	○	○	○	
アカガシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ウラジログシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フユイチゴ		○	○	○		○	○	○	○
ミヤマフユイチゴ			○	○	○	○	○	○	○
ソヨゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒメヨツバムグラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シラスゲ		○	○	○	○	○	○	○	○
その他絶滅危惧種対象種									
マツグミ						○	○	○	○
キクモ						○			

◎ 確認情報による

2. 新津丘陵における新潟県絶滅危惧種の分布追加および動向

トケンラン *Cremastra unguiculata* (Finet) Finet ラン科

新津丘陵の植物調査に取り組んで9年になるが、これまで確認できなかった種である。丘陵のフロラをまとめた平慎三氏によれば、十数年前に生育を確認したところに現在でも健在であるとの情報を写真と共に提供して頂いた(写真1)。ただし、生育はほぼ発見当初と同じであり、これまで開花したことを確認していないという。

新津市が新潟市と合併したことから旧小須戸町が秋葉区に統合され、それに伴った新津丘陵に隣接した大沢や高立山の地域が追加された。その追加地域の植物調査を2009年度に集中的に進めてきた。その中から小須戸地区に分布していた県絶滅危惧種として新たに次のような種が含まれる。

フクジュソウ *Adonis amurensis* Regel et Radde

県の絶滅危惧種Ⅱ類の種で、乱獲による絶滅が心配される(写真2)。自生地保護に配慮が必要であろう。

ヒカゲスミレ *Viola yezoensis* Maxim.

発見時開花後であったために、花が確認できなかったが、地上茎がなく根生葉を数枚つけた個体が20数株ほど生えていた(写真3)。本種は県の絶滅危惧種Ⅱ類である。産地の詳細は10頁に掲載。

ヨコグラノキ *Berchemilla berchemiaefolia* (Makino) Nakai

県の絶滅危惧種の中で地域個体群に指定されている。本種については、既に本年報2004(9頁)で分布や生育地の生態を報告している。

ヒメシャガ *Iris gracilipes* A. Gray

小須戸高立山 180m: IS-写真OL0927-33('09)

県の準絶滅種であり、乱獲しないような配慮が必要であろう。



写真1 トケンラン (2009 3/9: 平慎三氏提供)



写真2 フクジュソウ (2008 3/16:)



写真3 ヒカゲスミレ
小須戸大沢 (2009 9/4)

3. 新津丘陵における新産種

新たに追加した種および記載に使用した略号は、以下のようである。

[略号] IS:石沢の標本、IS-後の数字は標本番号で新津資料室に保管; ('08, '09):2008・2009年の標本採集年
あるいは写真撮影年; Photo:写真資料; Photo-後の数字は写真ネガ番号あるいはデジタル撮影番号; [8桁の数字など]:地形図座標(環境省3次メッシュマップ あるいは5万分一地形図番号)

ヒトリシズカ *Chloranthus japonicus* Siebold

東島 40m:IS-(写真)OL090526-30('09)[新津 5639-51-20]

阿賀野川流域やそれ以北では広く分布する(荒木1980)が、県中部では分布の稀な種である。新津丘陵でこれまで記録がなかったので、追加する(写真4)。

ベニヒサカキ *Eurya japonica* Thunb. form. *rubescens* Momiyama

ヒサカキの花は、普通白であるが、紅色の個体が見られたので、記録する(本年報表紙写真参照)。

タニギキョウ *Peracarpa carnosa* (Wall.) Hook. f. et Thomson

var. *circaeoides* (F. Schmidt ex Miq.) Makino ex H. Hara

秋葉山 20m:IS-写真OL09418-9('09)[新津 5639-51-31]

県内広く分布して海拔の高いところまで分布している。丘陵での分布地点は多くないようで、これまで記録がなかったので追加する(写真5)。なお、本種は樋浦敏子氏の情報提供により、現地を訪れて分布を確認した。



写真4 ヒトリシズカ 東島 (2009 5/26)

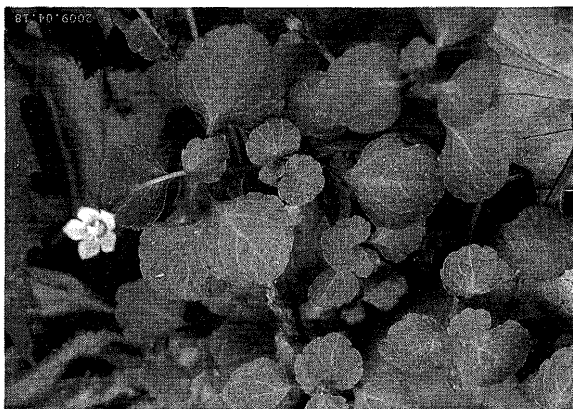


写真5 タニギキョウ 秋葉山 (2009 4/18)

4. 小須戸地区:小須戸丘陵地の追加植物(石沢 進・朱 雁)

新潟市に合併した小須戸地区の内、新津丘陵に隣接する山地(小須戸丘陵地)に分布する植物を調査した。しかし、1年間だけの調査であったので、ここでは、断片的な報告に留める。前項の絶滅危惧種のところに記述したように新潟市に合併した小須戸地区の植物調査から、新津丘陵に分布していない種について以下に掲載する。旧新津丘陵の植物と小須戸地区の植物相の相違については、さらに調査を重ねた上で検討したい。

クルミ科 Juglandaceae

サワグルミ *Pterocarya rhoifolia* Siebold et Zucc. [IS-写真OL090904-158](写真6)

ヤナギ科 Salicaceae

ヤマネコヤナギ *Salix caprea* L. [IS-写真OL090523-118](写真7)

カバノキ科 Betulaceae

オオバヤシヤブシ *Alnus sieboldiana* Matsumura [IS-写真OL090701-27](写真8)

ブナ科 Fagaceae

ウバメガシ *Quercus phillyraeoides* A. Gray [IS-写真OL060610-13](写真9)

イラクザ科 Urticaceae

ヤマトキホコリ *Elatostema laetevirens* Makino [IS-422371('09)・IS-写真OL090603-65](写真10)

タデ科 Polygonaceae

トゲソバ *Persicaria senticosa* (Franch. et Sav.) H. Gross [IS-写真OL090925-122](写真11)

モクレン科 Magnoliaceae

シバコブシ *Magnolia* × *kewensis* Hort. et Pearce [8頁に写真掲載]*M.* × *euchlora* Momiyama

マツブサ科 Schisandraceae

マツブサ *Schisandra nigra* Maxim. [IS-写真OL091127-62] (写真12)

キンポウゲ科 Ranunculaceae

フクジュソウ *Adonis amurensis* Regel et Radde [前項 絶滅危惧種に写真2掲載]アズマイチゲ *Anemone raddeana* Regel [IS-422077・422094('09)・IS-写真OL090407-79] (写真13)

マタタビ科 Actinidiaceae

マタタビ *Actinidia polygama* (Siebold et Zucc.) Planch. ex Maxim.

[IS-422256・422564('09)・IS-写真OL090701-10・OL090721-81] (写真14-1・2)

ケシ科 Papaveraceae

ヤマエンゴサク *Colydalis ochotensis* Turcz. var. *raddeana* (Regel) Nakai

[IS-422096・422139('09)・IS-写真OL090407-85・89] (写真15-1・2)

アブラナ科 Cruciferae

ジャニンジン *Cardamine impatiens* L. [IS-写真OL090523-173] (写真16)

ユキノシタ科 Saxifragaceae

バйкаウツギ *Philadelphus satsumi* Siebold ex Lindl. et Paxton [IS-写真OL091208-17]
(写真17-1・2)

クロウメモドキ科 Rhamnaceae

ヨコグラノキ *Berchemilla berchemiaefolia* (Makino) Nakai [IS-写真OL091127-66] (写真18)

スミレ科 Violaceae

ヒカゲスミレ *Viola yezoensis* Maxim. [前項 絶滅危惧種に写真3掲載]

イワウメ科 Diapensiaceae

オオイワウチワ *Shortia uniflora* (Maxim.) Maxim. [IS-写真OL091127-72] (写真19)

ユリ科 Liliaceae

ヒメヤブラン *Liriope minor* (Maxim.) Makino [IS-写真OL091127-80] (写真20)

アヤメ科 Iridaceae

ヒメシャガ *Iris gracilipes* A. Gray [IS-写真OL091127-33] (写真21)

上記植物のうち、県内でも分布の少ない種には、シバコブシ、ヨコグラノキ、ヒカゲスミレ、ヒメシャガなどがある。ヨコグラノキについては、すでに本年報2004で紹介している。シバコブシとヒカゲスミレについて以下(8頁と10頁)に記録する。



写真 6 サワグルミ



写真 7 ヤマネコヤナギ



写真 8 オオバヤシャブシ

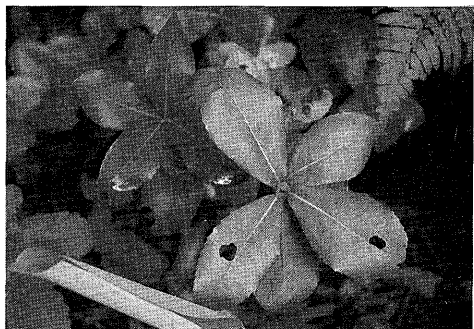


写真 9 ウバメガシ



写真 10 ヤマトキホコリ



写真 11 トゲツバ



写真 12 マツブサ

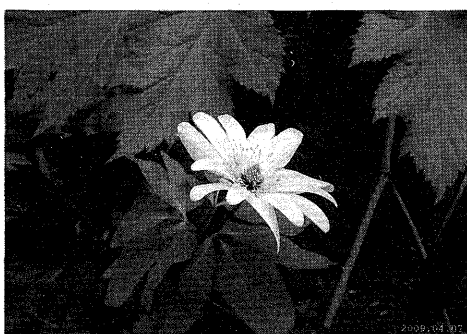


写真 13 アズマイチゲ



写真 14-1 マタタビ



写真 15-1 ヤマエンゴサク

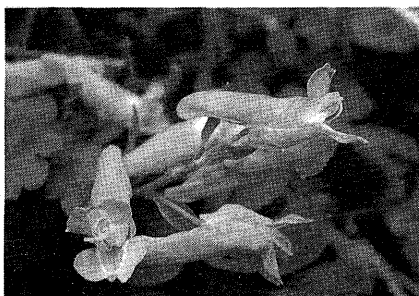


写真 15-2 ヤマエンゴサク



写真 14-2 マタタビ



写真 16 ジャニンジン

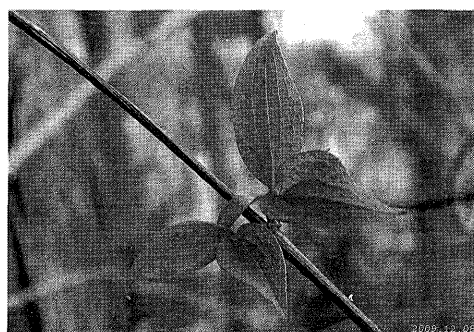


写真 17-1 バイカウツギ

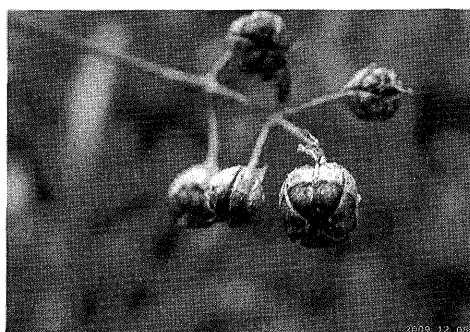


写真 17-2 バイカウツギ

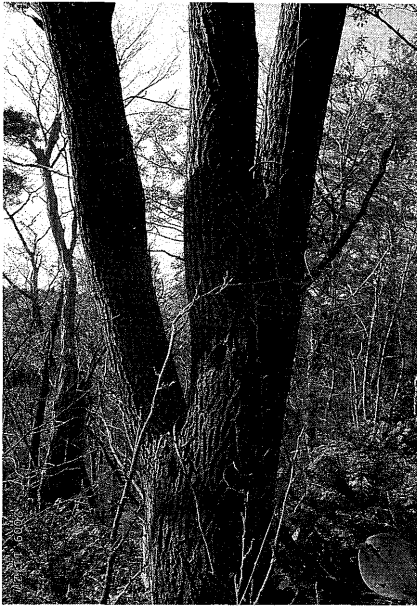


写真 18 ヨコグラノキ



写真 19 オオイワウチワ



写真 20 ヒメヤブラン



写真 21 ヒメシャガ

●シバコブシ *Magnolia ×kewensis* Hort. et Pearce

モクレン科

シバコブシは、キタコブシとタムシバの雑種で、本州・四国・九州にまれに分布すると記している（杉本 1983）。これまでの県内における分布の記録（池上・石沢 1988）と小須戸の産地を追加して、分布図（9頁）と分布資料（10頁）に示す（写真22-1・2）。

シバコブシの分布図



写真 22-1 シバコブシ（小須戸）



写真 22-2 シバコブシ（小須戸）



写真 22-3 シバコブシ（長野：栄村）



写真 22-4 シバコブシ（長野：栄村）

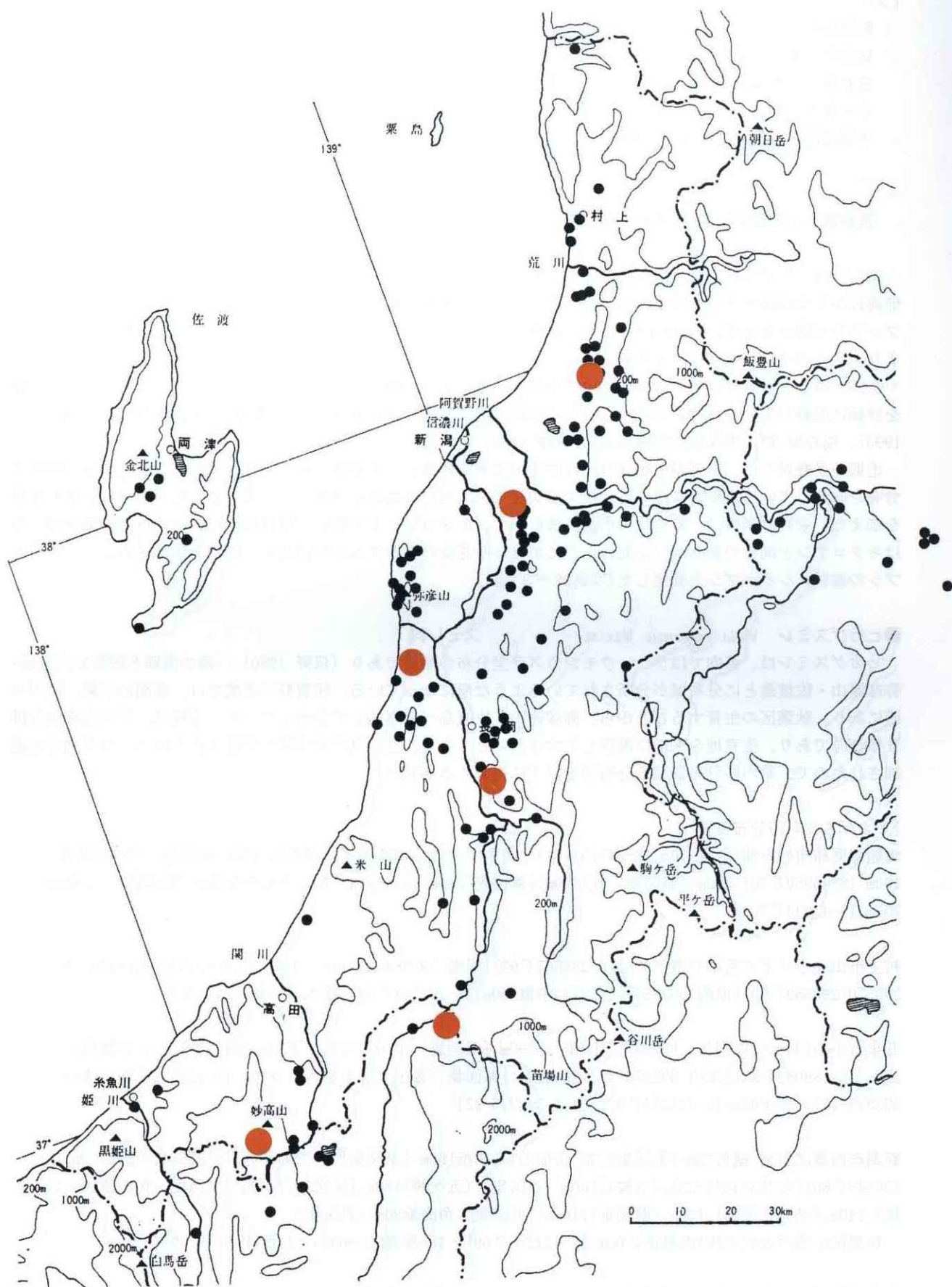


図1 シバコブシ(●)とキタコブシ(●)の新潟県における分布

[シバコブシの分布資料]

新発田市菅谷 50m: IS-193696('85) [新発田 5639-73-71]
 新潟市秋葉区小須戸矢代田本地 90m: IS-写真060610-34・35 [新津 5639-40-98]
 三島郡寺泊町金山 110m: IS-174598('83) [三条 5638-36-41]
 小千谷市小栗山金倉山 580m: IS-82186('74) [長岡 5638-06-19]
 中頸城郡妙高高原町池ノ平 690m: IS-206554('86) [妙高山 5538-21-44]

長野県下水内郡栄村雪坪 300m: IS-写真2770-5~10, 2776-15~22('03) [苗場山 5538-34-77]

県内では、キタコブシは低海拔に分布し、阿賀野川や信濃川の河川沿いの山地に多くみられる。タムシバは、低海拔から高海拔まで広く分布している。所によっては両種が共存している。雑種であるシバコブシは、キタコブシの分布圏に生えている(図1)。また、キタコブシとタムシバが共存している所があるので、精査することにより、多くの産地が追加されるであろう。

県外では、北の秋田県での分布について県南部に多いこと記録し、キタコブシ・タムシバとシバコブシの形態を詳細に記録している(松田 1993)。山形: 水晶山, 滝山, 海味(西川町), 羽付(南陽市)などに分布し(結城 1993)、福島県: 郡山市保成に記録がある(斎藤 1987)。

近県の長野県では、長野県植物誌(1997)の中では未確認種として記録されている。しかし、北部の栄村雪坪で分布を確認している。新潟県津南町に接する栄村で志久見川の対岸に分布していることから分布図にも分布地点を加えた。栄村の個体は、がく片の形が長披針形で、キタコブシより長い。開花時に花の付け根に緑葉が開くのはキタコブシと同じであるが、上記のようにがく片や花卉の形がタムシバに近い。この個体はタムシバとキタコブシの雑種、シバコブシと同定した(写真22-3・4)。

●ヒカゲスミレ *Viola yezoensis* Maxim. スミレ科

ヒカゲスミレは、県内ではラショウモンカズラ型分布の植物であり(荻野 1980)、県の南部と阿賀野川流域・弥彦連山・佐渡島とに分布域が分断されているような形になっている。阿賀野川流域では、鹿瀬の平瀬、津川の西にあり、秋葉区の生育することから、弥彦連山・佐渡島へと連続して分布している。本種は、新潟県絶滅危惧Ⅱ類(VU)であり、生育地を大切に温存しておきたいところである。県の分布図が作成されてから、分布地点も追加されたので、県内の分布資料と分布図を以下に掲載する(図2)。

[ヒカゲスミレの分布資料]

岩船郡粟島浦村内浦(水場) 30m: IS-54515('71); 背中平下 120m: [県図集]; 高畑山: 180m [県図集]; 内浦大阪山 180m: IS-46950('70); 200m: [県図集]; 牧平 70m: [県図集]; 80m: IS-46814('70); うしのり 70m: [県図集]; 小柴山 200m: IS-47034('70)

村上市山北塔ノ下<荒川口道> 30m: IS-285507('93) [温海 393384-21(11)]; 中浜雨乞立(大須川池) 140m: IS-290570・290589('93) [温海 393384-11(22)]; 中継 60m: IS-297744('94) [勝木 393383-24(12)]

五泉市小山田 40m: [県図集]; 同 70m: [県図集]; 同 90m: [県図集]; 小山田角沢山下 80m: [県図集]; 小山田蟹沢山 150m: IS-188083('83) [津川 392375-12]; 菅出 60m: [県図集]; 菅出<菅名岳入口> 70m: IS-121621('78) [津川 392375-12]; 馬下 40m: IS-245217('90) [津川 392375-12]

新潟市西蒲区岩室 樋曾 70m: [県図集]; 巻 角田山(角田浜) 60m: [県図集]; 角田岬 60m: IS-238541('89); 70m: IS-238545('89) [弥彦384375-23]; (五輪石) 90m: [県図集]; (五ヶ峠) 130m: [県図集]; 140m: [県図集]; 角田岬 60m: [県図集]; 140m: [県分布図集]; 150m: [県図集]; 160m: [県図集]; 角海浜 80m: [県図集]

秋葉区小須戸大沢<灰ヶ沢林道> 60m: IS-422255('09)・IS-写真0L090904-81 [新津 5639-40-78]

東蒲原郡阿賀町鹿瀬 平瀬一夏渡戸 80m: IS-53416('71); 平瀬 95m: [県図集]

阿賀町津川西 60m: [県図集]; 三川取上(観音堂) 40m: IS-60248('71)

中魚沼郡津南町小島 240m: [県図集]

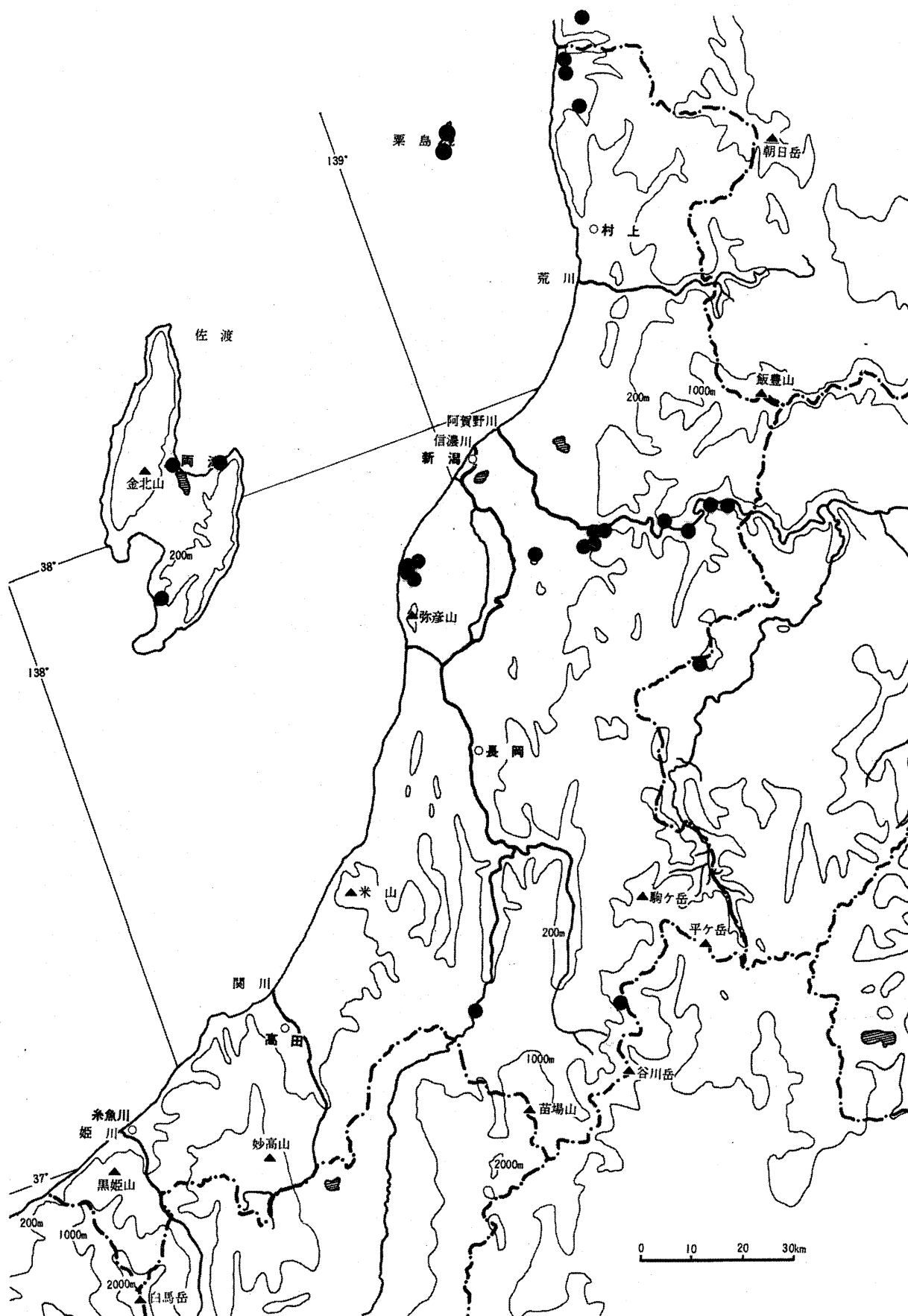


図2 ヒカゲスミレ(●)の新潟県における分布

南魚沼市塩沢清水巻機山(割引沢)760m:[県図集]

佐渡市真野西三川(川沿い)90m:[県図集];両尾 100m:渡辺写真 [水津② 5738-04-71];新保(新保川 発電所)190m:IS-写真OL070428-65・66[相川 5738-02-88]

山形県西田川郡温海町小国 120m:[県分布図集]

福島県耶麻郡山都町山都 140m:IS-132531('79)・132534('79)[喜多方 394375-32]

熱塩加納村熱塩温泉 340m:IS-67002('72)[熱塩 394375-32]

佐渡島の分布:渡辺洋子氏の報告(本誌19頁参照)

●ヒメシャガ *Iris gracilipes* A. Gray

アヤメ科

ヒメシャガは、県内における分布の少ない種であり、準絶滅危惧種に指定されている。新津丘陵でもまれに生育している。今回、晩秋の調査で発見したので、花や実を確認できなかった。新たに現地調査を行い、詳細な分布状況や生態について報告したい。ここでは、枝分かれて広がるその根茎の状態を写真23で紹介する。

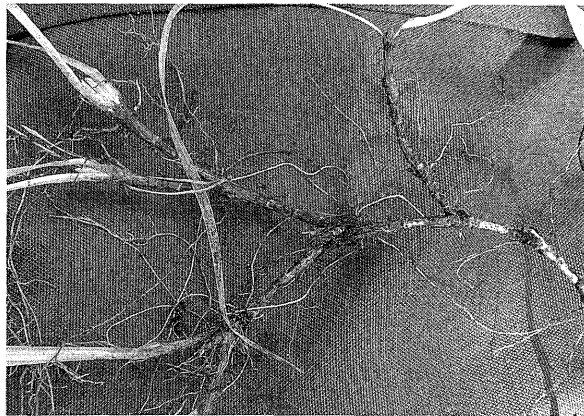


写真23 ヒメシャガの根茎

2009年の秋葉区内現地調査やまとめにあたっては、樋浦敏子・石川典子・坂爪真里子・田村幸子の各氏にご協力頂ました。また、平 慎三氏に分布情報および写真を提供していただきました。厚くお礼申し上げます。

文献

池上義信・石沢 進(1988) 新潟県植物分布図集 第9集:454. 植物同好じねんじょ会

松田義徳(1993) 秋田県におけるシバコブシ *Magnolia ×kewensis* Pearce にいて. 秋田自然史研究 29:4-8.

荻野美代(1980) ヒカゲスミレ 新潟県植物分布図集 第1集:83. 植物同好じねんじょ会

斎藤 慧代表(1987) 福島県植物誌:257, 福島県植物誌編さん委員会

杉本順一(1983) 改訂増補新日本樹木総検索誌. 井上書店

結城嘉美(1993) 新版 山形県の植物誌: 147, 新版「山形県の植物誌」刊行委員会